

このたびは、ユピテルのカーセキュリティシステムVE-S160Eをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。
また本機は、『電波法第四条』技術基準適合証明を受けた無線局』および電波法施行規則第六条『特定小電力無線局』に該当するテレコントロールシステムです。

目次

はじめに	主な特長	2
	ご使用前に	4
	安全機能について	7
	各部の名称とはたらき	8
操作する	リモコンの上手な使いかた	8
	電池交換のしかた	9
	警戒開始(ドアロック)/警戒解除(アンロック)の操作	10
	機能設定	12
	エンジンを始動させる	14
	エンジンを停止させる	16
	車への乗車	17
	エンジンスターターの設定	18
	セル時間の設定	
	アイドリング時間の設定	
	グロー時間の設定	
	ターボタイマー機能の設定	
	セルモータ停止タイミング検出方法選択	
	始動判定方法選択	
	IG設定	
	エンジンスターター特殊制御設定	
	オールリセット	
ターボタイマー機能について	24	
スリープ機能について	25	
その他	バッテリー交換や本体付け替え時の再設定	26
	故障かな?と思ったら	28
	仕様	29
	アフターサービスについて	29
	保証書	裏表紙



警告

取り付けには、専門知識が必要です。

取り付けは、お買い上げの販売店、またはカーディーラーにご依頼ください。お客様ご自身で取り付けられた場合の保証は受けられません。また、本機を取り付けたことによる、車輛や車載品の故障、事故等の付随的損害については、一切その責任を負いません。

■取り付け可能な車

- 適応する車種別専用ハーネスの設定がある車
- オートマチック(AT)車
- キーの操作だけでエンジンを始動できる車
- 12V車で、⊖アースの車

※上記の4つの条件を満たす車以外ではお使いいただけません。

- マニュアル(MT)車には取り付けできません。

■愛車をイタズラ・盗難から守るセキュリティ機能

ドア開放検知 特許第3361294号

特許技術の空気流検知ドアセンサによりウェルカムランプや残照灯機能を搭載した車輜でも、正確なドアの開放検知が可能です。

※ 窓を開けている場合は検知できません。

2段階衝撃検知

本体に内蔵した2段階衝撃センサーが衝撃の強さを判別し、弱い衝撃ではスモールランプを点滅して威嚇します(警告動作)。また、強衝撃を検知した場合は車輜のクラクションを鳴らし、スモールランプの連続した点滅で警報します(警報動作)。さらに、強衝撃、弱衝撃の感度を各々調整することが可能です。

トランク開放検知

トランクの開放を警戒できます。

※ 別売ボンネットスイッチ(A-29SF)の接続で、ボンネットの開放検知に使用できます。
※ ボンネットとトランクの両方を警戒する場合は、別売リレーユニット(A-33SF)が必要です。

イグニッション監視

イグニッションON(ACC ON)を警戒できます。

クラクション警報

センサが異常を検知すると車輜のクラクションを鳴らして警報します。警報は30秒間継続します。

※ 警報音は断続音で鳴ります。

スモールランプフラッシュ警告・警報

センサが異常を検知すると車輜のクラクションと同時にスモールランプが点滅します。弱い衝撃を検知したときは、クラクションを鳴らさずにスモールランプの点滅で威嚇します。

また、警戒開始・解除時やエンジン始動検出完了後にもスモールランプの点滅で動作をお知らせします。(スモールランプアンサーバック機能)

■目立たないスパイラルアンテナを採用し、車内スッキリ

車内のインテリアデザインをそのままに、エンジンスターターのアンテナに目立たないスパイラルアンテナ(特許出願中)を採用しました。

■電波到達距離(直線見通し)3,000mを実現

高度な通信技術、エンジン始動制御技術の採用により、安定したエンジンの始動・停止ができます。

市街地、住宅地(見通し) 約300m(300m~700m)
妨害電波の少ない河川道路(見通し) 2,000m~最大3,000m(当社測定)

※ 電波の届く距離は、地形・建物などの条件により変化します。
※ ファンモーターなどのノイズの大きな車では、エンジンを始動させるときに比べ、停止させるときのほうが短くなることがあります。
※ 車輜の周囲の安全を十分に確認できる範囲でご使用ください。

■セル時間設定

車にあわせて、セルモータの始動時間を0.7秒、1.0秒、1.3秒、1.5秒、2.0秒、3.0秒、5.0秒(7段階)の設定ができます。

■アイドリング時間設定

季節、気候にあわせたアイドリング時間を、2/10/15/20/30分の5段階から選択できます。

■ターボタイマー機能

走行時間に合わせて、走行後のアフターアイドリング(30秒~3分)を自動的に行うことができます。

※ P・ポジションを自動検出できない車輜の場合は、P・ポジションインジケータランプへの接続が必要です。(フットブレーキへの接続では動作しません)

■スリープ機能

車を使用しない状態が14日以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。スリープ機能が動作すると、警戒を解除します。また、本機によるエンジン始動はできません。スリープ機能を解除するときは、1度車のキーを使ってエンジンを始動させてください。

■リトライ機能

1回でエンジン始動できなかったときに、再始動を自動的に2回まで行います。

■多彩なオプション

- ◆ ハザード制御(A-18SF)
エンジン始動、警戒開始・解除、警告・警報時に、車幅灯に代わってハザードランプを点滅できます。
- ◆ ドアミラーコントローラ(A-35SF)
本機リモコンのドアロック・アンロック操作でドアミラーの開閉ができます。
※適応車種限定 詳しくは弊社サービス部または販売店にお尋ねください。
- ◆ ボイスユニット(J-04SF)
作動確認音や警告音を日本語・英語ボイスまたはチャープ音から選択できます。
- ◆ スキャンングLED(赤色A-34SF(R)/青色A-34SF(L))
警戒・解除に連動してスキャンング動作を行います。より一層の抑止効果が期待できます。
- ◆ ボンネットスイッチ(A-29SF)・リレーユニット(A-33SF)
別売ボンネットスイッチ(A-29SF)の接続で、ボンネットの開放検知に使用できます。
※ボンネットとトランクの両方を警戒する場合は、別売リレーユニット(A-33SF)が必要です。
- ◆ 電子傾斜センサー(A-28SF)
車輜の傾きを警戒します。レッカーによる車輜盗難やジャッキアップによるタイヤ、ホイールの盗難を防止します。
※傾斜角1度以上を検知すると警報します。

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

警告: 警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。

注意: 注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

絵表示について

-   記号は注意を促す内容であることを告げるものです。
-   記号は禁止の行為であることを告げるものです。
-   記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

警告

-  シフトレバーは必ずパーキング(P)の位置で、パーキングブレーキをかけた状態で使用する…思わぬ事故の原因になり大変危険です。
-  車内に人(特に子供)やペットがいるときには、本機の設定をしない…万一、警報機能が働いた場合、大音量を発生しますので、聴覚障害やストレスを与える恐れがあります。
-  心臓ペースメーカー等の医療機器をご使用のお客様は、電波による医療用機器への影響を、医療用電気機器製造業者や担当医師にご確認ください。
-  車の近くに燃えやすいものがある場所では、使用しない…発火の恐れがあります。
-  車のボディカバーをかけたまま使用しない…発火や排気ガスによる中毒の恐れがあります。
-  お子様などを車に乗せたままでは、絶対に使用しない…室内はキーでONした場合と同じ状態になり、大変危険です。
-  リモコンはお子様の手の届かない場所に保管する…お子様が勝手にエンジンを始動させてしまい、事故の原因となります。
-  換気の悪い車庫や屋内では、使用しない…排気ガスによる中毒の恐れがあります。
-  必ずボンネットが閉まっている状態で使用する…エンジン部の作業中にエンジンが始動すると、大変危険です。
-  暖気運転の直後にエンジン点検などを行わない…火傷をする恐れがあります。エンジン停止後、少なくとも5分以上経過した後、十分注意して行ってください。
-  煙がでている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐに使用を中止して、販売店に修理を依頼してください。

警告

-  サービスマン以外の方は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。
-  思わぬ事故を防ぐために、次のような場合は、必ずリモコンの電池を抜いてください
 -  ボンネットを開けるとき
 -  整備や車検などで車を第三者に預けるとき
 -  本機の使用方法を理解されていないかたが運転するとき
 -  長期間、車を使用しないとき
-  走行するときは、いったん本機でエンジンを停止させ、必ずキーで再始動する
本機でエンジンを始動させた状態では走行できません
エンジンが作動している状態でのキーの誤操作はスターターの再飛び込みなど車を傷める危険があるばかりでなく、思わぬエンジンの停止や、ハンドルロック未解除のままの発進など、車の安全装置が働かないまま動き出すなどの事態をまねく危険性があります。
-  万一、破損した場合は、すぐに使用を中止する…そのまま使用すると火災や感電、事故の原因となります。
-  車輛の周囲の安全を十分に確認できる範囲で使用する
-  むやみに操作ボタンを押さない…リモコンの電波は周辺環境により、思わぬ遠方まで届く場合があります
-  あらかじめ駐車時には以下のことを守る
 -  ワイパー、ラジオ(オートアンテナ車の場合)をOFFにしてください。エンジン始動を行ったときに動き出すので危険です。また凍結した場合、モーターの損傷や車種別専用ハーネスのヒューズ切れを起こす恐れがあります。
 -  すべての窓を閉めてください。
 -  すべてのドアを施錠(ロック状態)してください。
 -  坂道や傾斜地でご使用になるときや、冬期でパーキングブレーキを解除して使用するときは、必ず輪止めをしてください。

公道上で、エンジンをかけたまま車を放置することは、道路交通法違反となります。必ず私有地で使用してください。

※公道とは不特定多数の車が入り出ることができる場所を含みます。



本機を取り付けたことによる、車輛や車載品の故障、事故等の付随的損害については、一切その責任を負いません。

ご使用の前に

ご注意 電波法について

- リモコン裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。はがして使用すると、電波法により罰せられることがあります。
- 海外では使用しないでください。
- 分解したり改造することは、電波法で禁止されています。改造して使用した場合は、電波法により罰せられることがあります。

ご注意 本機の機能について

- オートライトコントロールシステムやコンライトシステム搭載車などで、本機をご使用になる場合
オートライトコントロールシステムやコンライトシステム搭載車*で、夜間に本機を使用するときは、ライトスイッチを「OFF」にしておいてください。「AUTO」の状態では本機によりエンジン始動をした場合、ライトが点灯して、エンジンが停止したあとも消灯しません。
※暗くなると自動的にライトが点灯するシステム。エンジンが停止したあと、降車のためにドアを開閉することでライトが消灯します。
- 他の無線機やテレビ、ラジオ、パソコンなどの近くで使用すると、影響を与えたり、受けたりすることがあります。
- ドアロック(施錠)/アンロック(解錠)機能について(オプション対応)
ラジオの送信所やテレビ塔、NTTのアンテナタワーなどの強電界となる付近では、通信範囲が狭くなったり、ドア・アンロックができない場合があります。また、電池が完全に消耗してしまうとリモコン操作ができなくなりますので、車のキーは必ず携帯してください。キーでエンジンをかけているときは、リモコンでドアのロック/アンロックはできません。
※車から離れるときは、ドアのロックを確認してください。

ご注意 使用上の制限

- 使用するときには、必ず車のウィンドウを完全に閉めてください。ウィンドウが開いていると、ドア開を正しく検知できません。
- 強い雨や雹(ヒョウ)などが降ったときや、雨だれが車体にかかっているときには、ウィンドウやボディへの衝撃を検知して警報する場合があります。また地下駐車場など空調ファンの振動や音が発生している場所や、その他の振動や騒音が発生している場所では、本機のセンサーが働き、警報することがあります。このような場合は、センサー感度を調整してお使いください。
- 本機はセンサにより異常を検知し、警告・警報を発する防犯装置で、イタズラや盗難を完全に防止できるものではありません。また、本機の動作の有無に関わらず発生した盗難事故、イタズラによる損害、被害に対する責任は一切負いかねますのであらかじめご了承ください。

ご注意 取り扱いについて

- リモコンを持ち歩くときには、落下などの衝撃を与えないでください。
- リモコンは簡易防滴構造ですが、水につけたり、雨水などで濡れたりしないようにしてください。
- リモコンは、お子様の手の届かない場所に保管してください。
- リモコンを次のような場所に放置しないでください。
 - 暖房器具の近くやダッシュボードの上など、温度の高くなる場所。
 - 湿度の高い場所や、風通しの悪い場所。
 - ホコリや油煙の多い場所。
 - 非常に温度の低い場所。
- リモコンのアンテナに強い力がかかるような取り扱いはしないでください。
- リモコンが汚れたときは、柔らかい布でふいでください。ポリエステルなど静電気の起きやすいもの、またベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。



エンジンスターターの安全機能について

本機には、次の安全機能があります。

■ P・ポジション自動検出

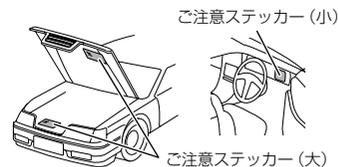
シフトレバーがパーキング(P)またはニュートラル(N)ポジション以外のおときは、エンジンの始動やターボタイマー機能の動作はできません。また、リモコンによる始動後、キーを差し込んだ状態で(ONポジションにキーを回さないまま)シフトチェンジすると、エンジンが停止します。



※一部の車輛では、P・ポジション自動検出のできないものや、できにくいものがあります。このような場合には、フットブレーキまたはP・ポジションインジケータランプへの接続が必要です。接続しないと、本機は動作しません。フットブレーキに接続した場合は、フットブレーキを踏むとエンジンが停止します。またP・ポジションインジケータランプに接続した場合には、シフトレバーがパーキング(P)の位置以外ではエンジンを始動できません。

⚠警告

- 整備や車検などで、エンジン部を作業中に、突然エンジンが始動すると大変危険です。万一の事故を防ぐためにも、第三者に車を預けるときは、リモコンの電池を抜いてください。
- 本機の取り付け後、安全のため、付属のステッカーを貼り付ける必要があります。「ご注意ステッカー(大)」は、エンジンルームを開けたときに、第三者にもわかるような目立つ場所に、「ご注意ステッカー(小)」はボンネットオープンやその付近の目立つ場所に貼り付けられていることを確認してください。



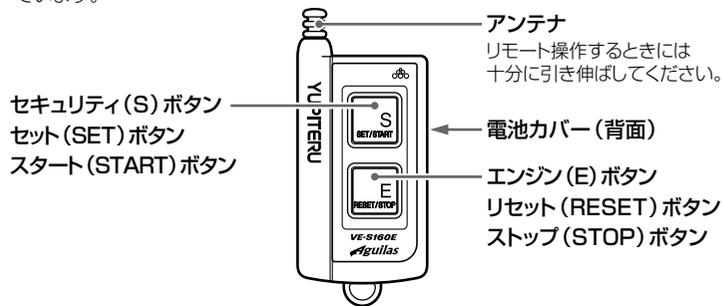
各部の名称とはたらき

リモコン

本機リモコンは、ダブルアクション操作(2回押し操作)により誤作動を防止しています。

ダブルアクションの最初にエンジン(E)ボタンを押した場合は、エンジンスターターの操作となり、最初にセキュリティ(S)ボタンを押した場合は、セキュリティの警戒開始/解除操作ができます。

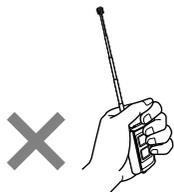
※本書、文中内の操作説明はエンジン(E)/セキュリティ(S)ボタンの2つの名称で統一して記載しています。



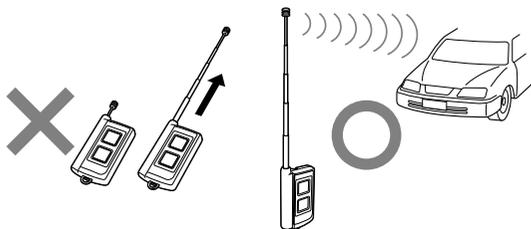
リモコンの上手な使いかた

リモコンを操作するときは、安定した通信距離を確保するために、次のことを守ってください。

■リモコンのアンテナを手で覆わないでください。
※電波が飛びにくくなります。



■リモコンのアンテナは完全に引き出し、垂直に立てて操作してください。



電池交換のしかた

電池を交換するときは下記の手順で電池を装着してください。
電池交換中は車の周囲の安全を確認してから行ってください。

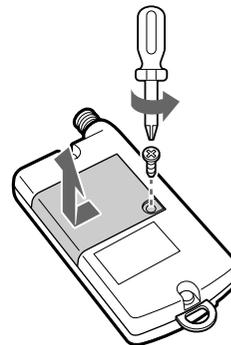
電池の交換時期について
リモコン操作できる距離が短くなったら、電池寿命です。
早めに新しい電池と交換してください。

電池寿命の目安

約1年を目安に新しい電池(CR2032)と交換してください。

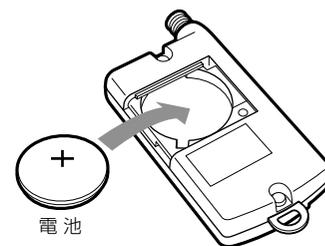
- ※使用する条件によって異なります。
- ※付属(内蔵)の電池はモニター用です。モニター用の電池は、記載された電池寿命より短い期間で切れることがあります。
- ※指定の電池(CR2032)以外は使用しないでください。

1 電池カバーを開ける



※ネジ、部品の紛失に注意してください。また、ネジの大きさに合ったドライバーを使用してください。ネジのつぶれの原因となります。

2 電池(CR2032)を、⊕を上にして入れる



※内部のネジなどには触れないでください。
分解したり改造することは、電波法で禁止されています。

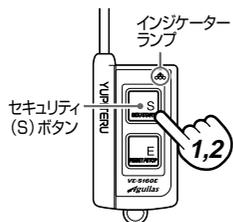
3 電池カバーを閉める

警告

使用済みの電池は、火中に投げ入れないでください。爆発して、火災・やけどの原因となることがあります。
また、事故防止のため、リモコンの電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一お子様が飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

警戒開始(ドアロック)/警戒解除(アンロック)の操作

本機リモコンで、警戒開始・警戒解除の操作ができます。
警戒中は、ドアの開放・衝撃(強弱2段階)を検知して、警告・警報を行います。また、弱い衝撃などの警告動作をOFFにして警戒することができます。(警戒モード2)



- メモ**
- 警報モード1は、全てのセンサーを警戒状態にします。
 - 警戒モード2は弱い衝撃をOFFにして警戒するモードです。

警戒を開始する(ドアロック)

1 セキュリティ(S)ボタンをインジケータランプが点滅するまで押す

2 インジケータランプが点滅中(約3秒間)に、セキュリティ(S)ボタンを押す

インジケータランプが点滅から、点灯(約2秒間)へ変わり、警戒開始信号が送信されます。車幅灯(スモールランプ)が1回点滅して、警戒の開始をお知らせします。
警戒モード1で警戒を開始します。警戒モード2で警戒する場合は、スタンバイ時間中にもう一度、警戒を開始する操作を行ってください。

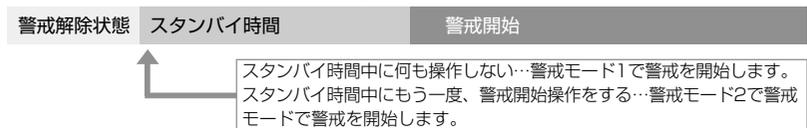
- ご注意**
- エンジンキーでアイドリングしているときは、警戒開始・ドアロックができません。
 - 本機アイドリング中にエンジンキーをONにした場合は、本機によるアイドリング終了後は、ドアロック/アンロック機能が動きません。
 - 本機でのエンジン始動時、(セルが回っているとき)は、ドアロック/アンロック機能を停止しています。

警戒モードを変更する

本機リモコンでのドアロック操作は、警戒モード1での警戒となります。警戒モードを変更する場合は、警戒を開始するまでのスタンバイ時間中にもう一度警戒開始操作を行ってください。警戒モード2で警戒を開始できます。

警戒モード2で警戒する場合

警戒開始操作を行う もう一度警戒開始操作を行う



警戒中の動作

警戒中は、車輻の衝撃(強弱2段階)・ドアの開放・トランク(ボンネット)の開放・イグニッションON・傾斜を検知すると警告・警報動作を行います。

- 警報動作…ドア(トランク/ボンネット)の開放、強い衝撃、傾斜の検知
車輻の警音器(クラクション)を30秒間鳴らし、車幅灯(スモールランプ)が連続して点滅します。クラクションは断続音で鳴動します。
- 警告動作…弱い衝撃の検知
車幅灯(スモールランプ)が1回点滅します。

メモ

- イグニッションONはACC(アクセサリ)ONを検知しています。
- トランクの開放を検知する場合は、トランクセンサの接続が必要です。
- ボンネットの開放を検知する場合は、別売A-29SF:ボンネットの接続が必要です。
- 傾斜を検知する場合は、別売A-28SF:電子傾斜センサーの接続が必要です。電子傾斜センサーは車輻の傾き(傾斜角1度以上)を検知して警報します。
- トランクとボンネット両方の検知をする場合は、別売A-33SF:リレーユニットが必要です。

警戒を解除する(アンロック)

1 セキュリティ(S)ボタンをインジケータランプが点滅するまで押す

2 インジケータランプが点滅中(約3秒間)に、エンジン(E)ボタンを押す

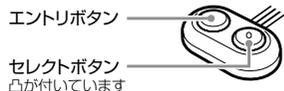
インジケータランプが点滅から、点灯(約2秒間)へ変わり、警戒解除信号が送信されます。
車幅灯(スモールランプ)が2回点滅して、警戒の解除をお知らせします。

注意

- 車のバッテリー上がり、本機リモコンの電池切れ、または故障などの場合、リモコンでドアを開けることができなくなります。車のキーは必ず携帯してください。
- 本機のリモコンは、ダブルアクション操作により誤作動を防止していますが、純正キーレスエントリーシステムに比べ電波到達距離が長いので、リモコンの操作には十分に注意してください。

機能設定

本機機能を下記の手順で設定します。



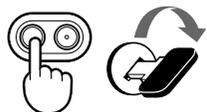
設定操作

手順

設定例 パレーモードをONにする

準備

緊急解除スイッチのエントリボタンを押しながら、エンジンキーをACCまで回す。「ピーピーピー」が鳴り、設定項目を示す確認音「ピッ」が連続して鳴ります。



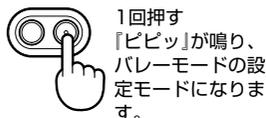
セレクトボタンを押し、設定項目を選択する。

セレクトボタンを押すごとに設定項目が進みます。

確認音で確認しながら設定項目を選択します。

項目の選択

設定項目	確認音 (連続して鳴ります)
誤動作防止機能	ピッ
パレーモード設定	ピピッ
スタンバイ時間設定	ピピピッ
未使用	ピピピピッ
トランク/ボンネット選択	ピー
未使用	ピーピッ
ボイスユニット選択	ピーピピッ
未使用	ピーピピピッ
未使用	ピーピピピピッ
未使用	ピーピー



ご注意

未使用項目は設定を変更なさらないようにご注意ください。設定を変更すると正常に動作しない場合があります。

項目の決定

エントリボタンを押し、設定項目を確定する。

※確認音が止まります。



設定値変更

セレクトボタンを押し、設定値を選択する。

設定音が1回鳴ります。

下表の設定音を確認しながら設定項目を選択します。



1回押す「ピピッ」が鳴り、パレーモードONが選択されます。

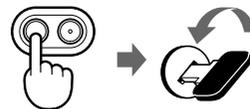
設定値決定

エントリボタンを押し、設定値を確定する。

完了音「ピー」が鳴ります。

ほかの設定項目を変更する場合は、セレクトボタンで設定項目を選択します。

設定を終了する場合は、エンジンキーをOFFにしてください。



設定項目	動作内容	設定値	設定音
誤動作防止機能	一定時間内に同じセンサが異常を3回検知すると、誤動作と判断し、警告・警報しません。5分以上検知しない状態が続くと、通常の状態に復帰します。	誤動作防止ON	ピッ
		誤動作防止OFF	ピピッ
パレーモード設定	警戒操作を無効にします。お車の点検や整備の際にご使用ください。	パレーモードOFF	ピッ
		パレーモードON	ピピッ
スタンバイ時間設定	警戒操作から警戒を開始になるまでの時間を設定できます。	10秒	ピッ
		30秒	ピピッ
		60秒	ピピピッ
		180秒	ピピピピッ
トランク/ボンネット選択	トランクセンサを、開いたときにOVになる信号線に接続する場合は、「ボンネット」を選択してください。	トランク	ピッ
		ボンネット	ピピッ
ボイスユニット選択 別売J-04SF：ボイスユニット接続時	ボイスユニットの音色(ボイス)を選択します。	接続無し	ピッ
		日本語	ピピッ
		英語	ピピピッ
		BEEP音	ピピピピッ

は初期値を示しています。

操作する

操作する

エンジンを始動させる

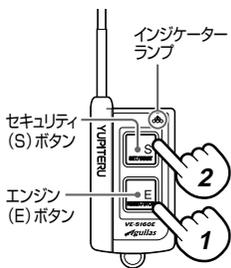
⚠️ 注意

降雪時や寒冷地で車を駐車する際の注意
車を駐車する際は、ワイパーをOFFにしてください。

本機でエンジン始動の際、ワイパーの凍結等により、過大な負荷がかかり車種別専用ハーネスのヒューズが切れる恐れがあります。

リモコンを操作するときには

- アンテナを十分に伸ばしてください。
- アンテナに手などを触れると電波が飛びにくくなります。



メモ

- 車のバッテリーの性能が低下しているときは、車のキーで始動させる場合に比べ、本機でのエンジン始動ができにくくなります。

リモコンの操作

- 1 エンジン(E)ボタンをインジケータランプが点滅するまで押す



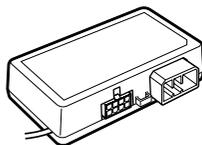
- 2 インジケータランプが点滅中(約3秒間)に、セキュリティ(S)ボタンを押す



インジケータランプが点滅から、点灯(約2秒間)へ変わりスタート信号が送信されます。

リモコンからの信号を受信すると

- 3 安全機能のチェックを自動的に行う



- 4 約5秒後にエンジンを始動させる

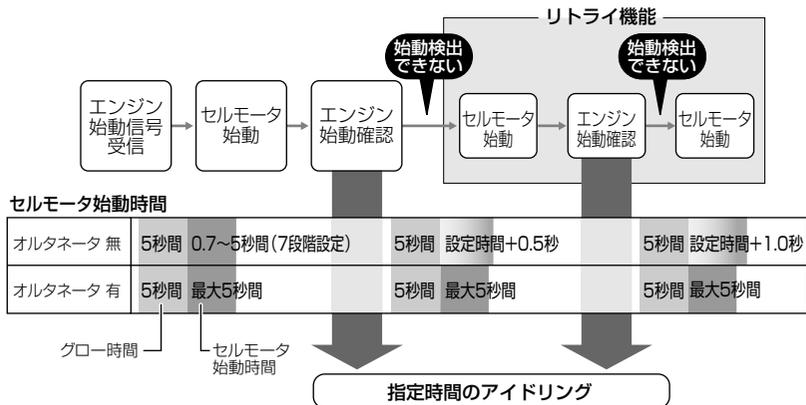
- 始動すると、アイドリング中はスタータユニットから断続音が鳴り続けます。(本機でエンジンを始動させたことをお知らせします)
- アイドリング中に警戒開始操作を行った場合は、アイドリング終了後に警戒を開始します。
- 警戒中に本機リモコンでエンジンを始動すると、警戒モード2で警戒を継続します。アイドリング停止後は、始動前の警戒モードに戻ります。
- 始動しなかったときは、リトライ機能が働きます。
- 車幅灯(スモールランプ)が3回点滅して、エンジン始動をお知らせします。また、エンジン始動中に上記エンジン始動操作を行うと車幅灯(スモールランプ)を3回点滅して、アイドリング中であることをお知らせします。

- 始動したあと、設定されている時間*が経過すると自動的にエンジンは停止します。

*2分~30分。(アイドリング時間の設定は18ページ参照)

リトライ機能とセルモータ始動時間について

エンジンが始動しなかったときに、再始動(リトライ)を2回行います。



※ オルタネータ線を接続した場合、セルモータの始動時間は最大5秒となり、エンジンの始動を検出すると、セルモータを停止します。

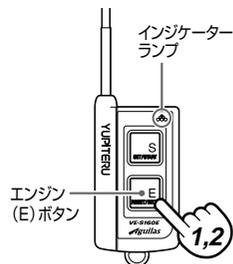
※ 車種や電装品によっては、エンジンの始動確認ができず、再始動(リトライ)を繰り返す場合があります。このような場合は、オルタネータ線(白線)の接続が必要です。

⚠️ 警告

車輛の周囲の安全を十分に確認できる範囲で使用してください。また、むやみに操作ボタンを押さないでください。
リモコンの電波は周辺環境など、条件の良いところでは遠方(3km以上)まで届くことがあります。

エンジンを停止させる

本機でエンジンを始動したときは、以下の操作でエンジンを停止(アイドリングを中止)することができます。

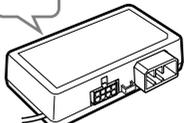


リモコンの操作

- 1 エンジン(E)ボタンをインジケータランプが点滅するまで押す**
 → 
- 2 インジケータランプが点滅中(約3秒間)に、エンジン(E)ボタンを押す**
 → 

インジケータランプが点滅から、点灯(約2秒間)へ変わりストップ信号が送信されます。

リモコンからの信号を受信すると

- 3 エンジンが停止する**
スタータユニットからの断続音は鳴りやみます。


警戒中にエンジンを始動した場合は、始動前の警戒モードで警戒を継続します。

※フットブレーキを踏んで、一旦シフトレバーをDまたはRの位置にすることで、エンジンを停止することもできます。

車への乗車

本機でエンジン始動した状態では、走行できません。走行するときは、いったんエンジンを停止させた後、必ずキー操作でエンジン始動してください。

車を発車させる

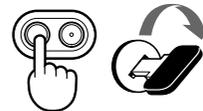
キーでエンジンを始動させる
走行できます。



万一、警戒状態でリモコンの電池切れまたは故障の場合は、警戒を解除することができます。

緊急解除操作手順

緊急解除スイッチのエントリーボタンを押しながら、エンジンキーをON (ACC)まで回す



メモ

エンジンが始動しているときに、ファンモーターなどのノイズの大きい車や、無線機の近くで使用すると、それらの影響で、リモコンの通信距離が短くなる場合があります。

本機は車輛や季節、気候にあわせて、最適にご使用いただくために、各種設定機能を設けてあります。

ご注意 「設定には専門知識が必要です」の記載がある項目は、不用意に設定を変更なさらないようお願いいたします。誤った設定は本機でエンジンが始動できなくなるだけでなく、セルモータ焼損など車輛の走行に支障をきたす場合がございます。設定変更が必要な場合は、本機取り付け店にご相談ください。

セル時間の設定 (設定には専門知識が必要です)

車にあった、セル時間を7段階から選択できます。セルモータのひきずりがある場合にはセル時間を短めに、エンジンが始動しにくい場合には長めに設定してください。設定には十分ご注意ください。

※工場出荷時は1.0秒に設定されています。

ポイント

オルタネータ線(白線)を接続している場合は、セル時間内にエンジンの始動検出ができると、セルモータを停止します。

設定値	設定音
0.7秒	ピッ
1.0秒	ピピッ
1.3秒	ピピピッ
1.5秒	ピピピピッ
2.0秒	ピー
3.0秒	ピーピッ
5.0秒	ピーピピッ

アイドリング時間の設定

本機で始動した場合のアイドリング時間を5段階から選択できます。

※工場出荷時は10分に設定されています。

設定値	設定音
2分	ピッ
10分	ピピッ
15分	ピピピッ
20分	ピピピピッ
30分	ピー

グロー時間の設定

一部のディーゼル車などで、5秒以上のグロー時間を必要とする場合は設定してください。リモコン始動などで問題がない場合は、設定を変更しないでください。

※工場出荷時は5秒に設定されています。

ご注意

グロー時間を7.0秒、10.0秒を選択した場合は、オルタネータ線の接続が必要です。

設定値	設定音
2.0秒	ピッ
3.0秒	ピピッ
5.0秒	ピピピッ
7.0秒	ピピピピッ
10.0秒	ピー

ターボタイマー機能の設定

ターボタイマー機能のON/OFFを設定できます。

☞ 24ページ「ターボタイマー機能について」

※工場出荷時はOFFに設定されています。

設定値	設定音
OFF	ピッ
ON	ピピッ

設定操作 (セル時間の設定、アイドリング時間の設定、グロー時間の設定、ターボタイマー機能の設定)

1

と ボタンを同時に押し、インジケータランプが点滅中に ボタンを押す
『ピロピロ』が鳴り、設定モードになります。

- 設定モード…エンジンスターター機能を設定できる状態。エンジン始動や警戒開始等の操作を行っても、動作しません。
- 通常モード…エンジン始動や警戒開始を操作できる状態。(通常のご使用状態)

2

設定項目の選択

項目音を確認しながら、警戒開始操作またはエンジン停止操作で設定項目を変更する

設定項目	項目音
セル時間	ピッ
アイドリング時間	ピピッ
グロー時間	ピピピッ
ターボタイマー機能のON/OFF	ピピピピッ

設定操作後は、約6秒(インジケータランプが消灯してから約3秒)以上の間隔で操作を行ってください。

- 警戒開始操作(項目を進める)
… ボタンを押し、インジケータランプ点滅中に ボタンを押す。
- エンジン停止操作(項目を戻す)
… ボタンを押し、インジケータランプ点滅中に ボタンを押す。

3

設定項目の決定

と ボタンを同時に押し、インジケータランプが点滅中に ボタンを押す
『ピロ』が鳴り、設定値の選択ができます。

ご注意

設定モード中は30秒以上ボタン操作がないと、設定した内容を無効にして通常モードに戻ります。

4

設定値選択

ドアロック操作またはエンジン停止操作で、ご希望の設定値に対応した設定音が鳴るまで操作する
設定音は、☞ 18ページをご覧ください。

5

設定値決定

と ボタンを同時に押し、インジケータランプが点滅中に ボタンを押す
設定内容を送信します。
『ピーピー』が鳴り、設定内容がスタータユニットに登録されます。

設定内容の登録を行わないと、設定前の動作となります。

6

通常モードに戻ります。

他の項目を設定する場合は、最初から操作を行ってください。

本機は一部の特殊な車輜でご使用いただくために、各種設定機能を設けてあります。

ご注意 「設定には専門知識が必要です」の記載がある項目は、不用意に設定を変更なさらないようお願いいたします。誤った設定は本機でエンジンが始動できなくなるだけでなく、セルモータ焼損など車輜の走行に支障をきたす場合がございます。設定変更が必要な場合は、本機取り付け店にご相談ください。

セルモータ停止タイミング検出方法選択 (設定には専門知識が必要です)

セルモータ停止タイミングの検出方法を選択できます。セル時間を設定してもセルモータの引きずりが改善されない場合に、設定を「電圧検出」に変更してご使用ください。セルモータの引きずりがない場合は、設定変更しなくてください。

※工場出荷時は「オルタネータ検出」(ブッ)に設定されています。

設定音	設定値
「ブッ」	電圧検出
「ブブッ」	オルタネータ検出
「ブブブッ」	検出しない

ポイント

工場出荷時の設定(「オルタネータ検出」を選択)をしている場合で、オルタネータ線が接続されていないときは、セル時間(☛ 18ページ「セル時間の設定」)で、セルモータを停止します。「電圧検出」選択時はオルタネータ線の接続は不要です。

ご注意

一部の車輜ではセルモータ停止タイミング検出を「電圧検出」に設定しても、セルモータの引きずりを改善できない場合があります。このような場合は設定を「オルタネータ検出」に戻して、オルタネータ配線を行ってください。

始動判定方法選択 (設定には専門知識が必要です)

本機でエンジン始動後、エンジン始動判定方法を選択できます。エンジンが正常に始動したにもかかわらず、1分程度で停止してしまう場合に、設定を「特殊判定」に変更してご使用ください。

※工場出荷時は「判定する」(ブッ)に設定されています。

設定音	設定値
「ブッ」	「判定する」 各検出機能によりエンジンの停止を始動すると、アクセサリ電源などを停止状態(電源をOFF)にします。
「ブブッ」	「特殊判定」 エンジン始動の判定を特殊モードで判定します。

ご注意

特殊判定を選択したときは、エンジンの始動ができなかった場合でもアクセサリ電源などを停止状態(電源をOFF)にしませんので、頻繁にエンジンが始動しない状態が続く場合は、車輜のバッテリー上がりにご注意ください。

IG設定 (設定には専門知識が必要です)

特殊な場合(一部のホンダ車など)を除き、設定の必要はありません。設定に際しては弊社サービス窓口にお問い合わせください。

※工場出荷時は「IG1+IG2」(ブブブッ)に設定されています。

設定音	設定値
「ブッ」	IG1
「ブブッ」	IG2
「ブブブッ」	IG1+IG2

エンジンスターター特殊制御設定 (設定には専門知識が必要です)

一部の車輜においてセルモータの制御が不能となることがあります。このような車輜において使用する特殊制御のため、設定に際しては弊社サービス窓口にお問い合わせください。

※工場出荷時は「ON」(ブブッ)に設定されています。

設定音	設定値
「ブッ」	OFF
「ブブッ」	ON

オールリセット

エンジンスターターの設定(☛ 18~23ページ)をすべて工場出荷時の設定に戻します。

設定音	設定値
「ブッ」	工場出荷時に設定を戻す
「ブブッ」	工場出荷時に設定を戻さない

設定操作 (セルモータ停止タイミング検出方法選択、始動判定方法選択、IG設定、エンジンスターター特殊制御設定、オールリセット)

1  と  ボタンを同時に押し、インジケータランプが点滅中に  ボタンを押す
「ギロロロ」が鳴り、設定モードになります。

2 設定項目の選択

項目音を確認しながら、警戒開始操作またはエンジン停止操作で設定項目を変更する

設定項目	項目音
セルモータ停止タイミング検出方法	ギロ
始動判定方法	ギロギロ
IG検出	ギロギロギロ
エンジンスターター特殊制御の設定	ギロギロギロギロ
オールリセット	ギローギロ

設定操作後は、約6秒(インジケータランプが消灯してから約3秒)以上の間隔で操作を行ってください。

3 設定項目の決定

 と  ボタンを同時に押し、インジケータランプが点滅中に  ボタンを押す
「ピロ」が鳴り、設定値に選択ができます。

- 警戒開始操作(項目を進める)
…  ボタンを押し、インジケータランプ点滅中に  ボタンを押す。
- エンジン停止操作(項目を戻す)
…  ボタンを押し、インジケータランプ点滅中に  ボタンを押す。

ご注意
設定モード中は30秒以上ボタン操作がないと、設定した内容を無効にして通常モードに戻ります。

4 設定値選択
ドアロック操作またはエンジン停止操作で、ご希望の設定値に対応した設定音が鳴るまで操作する

設定音

●セルモータ停止タイミング検出方法選択

設定音	設定値
「ブツ」	電圧検出
「ブブツ」	オルタネータ検出
「ブブブツ」	検出しない

●始動判定方法選択

設定音	設定値
「ブツ」	「判定する」 各検出機能によりエンジンの停止を始動すると、アクセサリ電源などを停止状態(電源をOFF)にします。
「ブブツ」	「特殊判定」 エンジン始動の判定を特殊モードで判定します。

●IG設定

設定音	設定値
「ブツ」	IG1
「ブブツ」	IG2
「ブブブツ」	IG1 + IG2

●エンジンスターター特殊制御設定

設定音	設定値
「ブツ」	OFF
「ブブツ」	ON

●オールリセット

設定音	設定値
「ブツ」	工場出荷時に設定を戻す
「ブブツ」	工場出荷時に設定を戻さない

は、工場出荷時の設定値です。

5 設定値決定

 と  ボタンを同時に押し、インジケータランプが点滅中に  ボタンを押す
設定内容を送信します。
「ピーピー」が鳴り、設定内容がスタータユニットに登録されます。
※設定内容の登録を行わないと、設定前の動作となります。

6 通常モードに戻ります。
他の項目を設定する場合は、最初から操作を行ってください。

ターボタイマー機能について

走行後のアフターアイドルを自動的に行うことができます。アフターアイドルの時間はオート方式です。

■ターボタイマー機能の動作について

ターボエンジン搭載車は、走行後、すぐにエンジンを停止させると、タービンのシャフト部の焼き付きを起す場合があります。ターボタイマー機能は、パーキング(P)またはニュートラル(N)にシフトチェンジされると動作を開始し、キーを抜いたあとも、アフターアイドルを自動的にを行い、エンジンを徐々に冷ましたあと、エンジンを停止させます。

※ターボタイマー機能は、シフトレバーがパーキング(P)または、ニュートラル(N)の位置でないと動作しません。(P・ポジション自動検出)

ただし、P・ポジション自動検出ができない車種でP・ポジションインジケータランプに接続している場合は、シフトレバーがパーキング(P)の位置のときだけ動作します。シフトポジションを移動したときは動作を停止します。

※ターボタイマー中に警戒開始操作を行った場合は、アフターアイドル終了後に警戒を開始します。

■ターボタイマー機能の設定

本書「エンジンスターターの設定」でターボタイマー機能のON/OFFを設定できます。

☞ 18ページ「ターボタイマー機能の設定」

■ターボタイマー機能を使用する

ターボタイマー機能の設定をすると、車のキーをACCまたはOFFにしたとき、自動的にアフターアイドルになります。

※アフターアイドル中に、リモコンでエンジン停止の操作を行うと、エンジンは停止します。

※給油等でアフターアイドルが必要ないときは、リモコンでエンジンを停止するか、フットブレーキを踏んで、一旦シフトレバーをDまたはRの位置にすると、エンジンを停止することができます。

■オート方式のアフターアイドル時間

走行時間に合わせて、アフターアイドルの時間が自動的に変化します。

走行時間	アフターアイドル時間
0分間～10分間	約30秒間
10分間～30分間	約1分間
30分間～1時間	約1分30秒
1時間～2時間	約2分間
2時間以上	約3分間

※ターボタイマー機能のアフターアイドル時間は、パーキングポジション(P)検出から開始します。

⚠注意

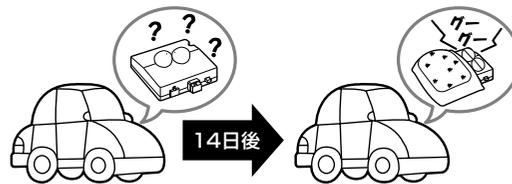
ご使用になる車種により、まれに正常に働かないことがあります。このようなときは、ターボタイマーの設定を解除してご使用ください。

※カーラジオのON/OFFに連動して、アンテナが昇降する車では、ターボタイマーが働いてエンジンが停止しても、アンテナが降りないことがあります。

スリープ機能について

車を使用しない状態が14日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。

スリープ機能が働くと、警戒を解除します。また、本機によるエンジン始動はできません。スリープ機能を解除するときは、1度キーを使ってエンジンを始動させてください。



本機を長期間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておきます。

車のバッテリーとエンジンスターター始動の関係

車のバッテリーの性能が低下しているときは、車のキーで始動させる場合に比べ、本機でのエンジン始動ができにくくなります。

このようなときはバッテリーを充電するか、新しいものと交換してください。

メモ

- 寒冷地では、オルタネータ線を接続し、バッテリーも大型のものに交換することをおすすめします。
- 車のバッテリー交換を行った場合は、再度P・ポジション自動検出機能の確認(☞26ページ)が必要です。

バッテリー交換や本体の付け替え時の再設定

バッテリーの交換や本機の付け替えなどで、バッテリーや車種別専用ハーネスを取りはずした場合は、再度、P・ポジション自動検出機能の確認が必要です。車種別専用ハーネスを接続すると、本機のスタートユニットから『ピピピッ ピピピッ ピピピッ』という確認音が連続して鳴ります。以下の手順でP・ポジション自動検出機能の確認を行ってください。(このような場合では、P・ポジション自動検出の確認をしないと本機は動作しません)

1 車種別専用ハーネスをスタートユニットのコネクター1に接続します

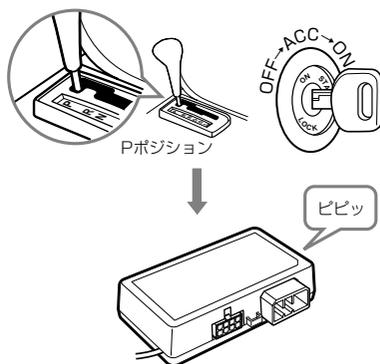
スタートユニットから『ピピピッ ピピピッ ピピピッ』という確認音が連続して鳴ります。

※確認音が鳴らない場合は、専用ハーネスのアース線の接続場所を、確認音が鳴る場所に変更してください。

2 シフトレバーがP・ポジションになっていることを確認し、キーを差し込んでOFF→ACC→ONと切り換えます

スタートユニットから約3秒後に『ピピ』という音が鳴ります。

※何も音が鳴らない場合は、専用ハーネスの種類とアース線の接続場所を再度確認してください。



P・ポジションが検出できず、フットブレーキを配線した場合

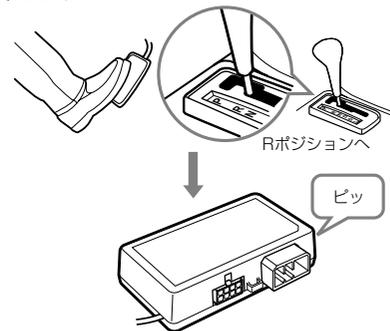
ブレーキペダルを踏まずに、キーを差し込んでOFF→ACC→ONと切り換えます

スタートユニットから約3秒後に『ピピ』という音が鳴ります。

3 フットブレーキをかけシフトレバーをP(パーキング)・ポジションからR(リバース)・ポジションに切り換えます

スタートユニットから『ピ』と鳴ります。

※何も音が鳴らない場合は、P・ポジション自動検出ができません。ブレーキ検出線(茶)の接続が必要です。(ブレーキ検出線の接続先は取付・接続説明書をご覧ください)



P・ポジションが検出できず、フットブレーキを配線した場合

ブレーキを踏みます。スタートユニットが『ピ』と鳴ります。

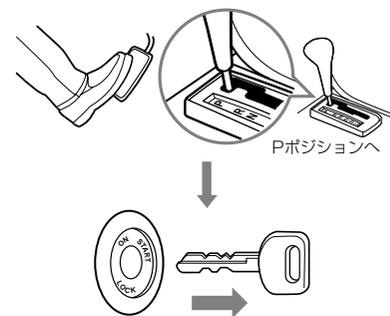
※ターボタイマー機能を使用する場合は、P・ポジションインジケータランプにブレーキ検出線を接続のうえ、スタートユニットのコネクター2にセンサーハーネスを接続し、最初からP・ポジション自動検出を行ってください。

※ターボタイマー機能を使用しない場合は、ブレーキスイッチにブレーキ検出線を接続のうえ、「フットブレーキに配線した場合」の手順に従って、P・ポジション自動検出を行ってください。

4 シフトレバーをP(パーキング)・ポジションに戻し、キーを抜いてください

スタートユニットより『ピー』という音が鳴ります。

※ブレーキ検出線をP・ポジションインジケータランプに接続した場合、『ピロロロ』と鳴ります。



P・ポジションが検出できず、フットブレーキを配線した場合

ブレーキをはなします。スタートユニットが『ピロロロ』と鳴ります。

以上でP・ポジション自動検出機能の確認は終了です

必要に応じて各センサー線(オルタネータ線、キーレスエントリー線、ハザード制御など)の接続を行い配線処理を行ってください。

※上記の操作で確認音が鳴らない場合や、何も音がしない場合は、専用ハーネスの種類やアース線の接続場所、センサーハーネスの接続場所を変更する必要があります。お買い上げの販売店、またはカーディーラーにご相談ください。

故障かな?と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。

症状	チェック項目	実施項目
操作ボタンを押してもリモコンのインジケータランプが点滅しない	<ul style="list-style-type: none"> 電池が消耗していませんか? 電池が正しく入っていますか? 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい電池と交換してください。 正しく電池をセットしてください。(←9ページ)
警戒できない	<ul style="list-style-type: none"> パレーモードONに設定していませんか? 	<ul style="list-style-type: none"> パレーモードOFFに設定してください。(←12ページ)
リモコン操作でエンジンが始動または停止できない(インジケータランプが点灯する場合)	<ul style="list-style-type: none"> スリープ機能が働いていませんか?(←25ページ) シフトレバーがパーキング(P)ポジションになっていますか? それぞれのコネクターがスタータユニットへしっかり接続されていますか? エンジンスターターの設定が正しく設定されていますか? P・ポジション自動検出ができていますか? 車と離れすぎていませんか? 車のバッテリーが弱っていませんか? キー操作でエンジンが始動しますか? キーでエンジンを始動していませんか? リモコンのアンテナを伸ばさずに操作を行っていますか? 	<ul style="list-style-type: none"> 1度キーでエンジンをかけてください。 シフトレバーをパーキング(P)ポジションにしてください。 確実に接続してください。 正しく設定してください。(←18~23ページ「エンジンスターターの設定」) 一部の車輛では、P・ポジション自動検出のできないものや、できにくいものがあります。このような場合には、フットブレーキまたはP・ポジションインジケータランプへの接続が必要です。(接続しないと、本機は動作しません) 電波の届く範囲内で操作を行ってください。 バッテリーを充電するか、新品と交換してください。バッテリーを交換した場合には、P・ポジション自動検出機能の確認が必要です。 車の点検をしてください。 アンテナを十分に伸ばして操作を行ってください。 アンテナに手を触れないで操作を行ってください。 新しい電池と交換してください。 車とリモコンの間に、障害物はありませんか? アンテナを十分に伸ばして操作を行ってください。
リモコン操作できる距離が短い	<ul style="list-style-type: none"> リモコンのアンテナに手を触れていませんか? リモコンの電池が消耗していませんか? 車とリモコンの間に、障害物はありませんか? リモコンのアンテナを伸ばさずに操作を行っていますか? 	<ul style="list-style-type: none"> アンテナに手を触れないで操作を行ってください。 新しい電池と交換してください。 車とリモコンの間に、障害物はありませんか? アンテナを十分に伸ばして操作を行ってください。

本機によるエンジンスタートやターボタイマー機能が動作しない場合は、エンジン始動失敗後にスタータユニットから鳴る音(エラー音)により、不具合を起こしている場所がわかります。本機の動作に不具合があったときは、この「エラー音」を確認して、取り付け店または弊社ご相談窓口にお問い合わせください。

エラー音	不具合の検出
PPP PPP PPP	Pポジションの検出ができていません。(←26ページ)
P・P	エンジンスターター動作中断時 P・ポジション検出
P・P P	エンジンスターター動作中断時 ブレーキ検出
P・P-	エンジンスターター動作中断時 電圧異常
P・P・P	エンジンスターター動作中断時 オルタネータ異常
PPP P	キー飛び込み検出
P・P・P P P	エンスト検出

仕様

■送信機(リモコン)

適合技術基準	特定小電力無線局 テレコントロール用無線設備
送信周波数	426.0750MHz
送信出力	1mW
使用電池	リチウム電池 CR2032×1
動作温度範囲	-10℃~+50℃
寸法	29(W)×50(H)×11.4(D)mm (突起部含まず)
重量	19g(電池含む)

■受信機(スタータユニット)

受信周波数	426.0750MHz
電源電圧	12V車専用(DC9~16V)
消費電流	スリープ時:約4mA以下 待機時:約8mA 最大:約300mA
動作温度範囲	-20℃~+60℃
寸法	スタータユニット: 111(W)×61(H)×26(D)mm (突起部含まず) アンテナ線:約2.4m
重量	120g

■セキュリティユニット

電源電圧	12V車専用
動作温度範囲	-40℃~85℃
消費電流	警戒時 平均5.6mA 待機時 平均3.6mA
外形寸法	126(W)×19(H)×72(D)mm(突起部含まず)
重量	85.9g

■ワイヤレスリレー

電源電圧	12V車専用
動作温度範囲	-40℃~125℃
消費電流	1mA以下
外形寸法	70(W)×25(H)×54(D)mm(突起部含まず)
重量	163.5g(ケーブル含む)

アフターサービスについて

次ページに続く

■保証書(裏表紙参照)

保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をご確認のうえ、保証内容をよくお読みのこと、大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げの日から1年間です。
(電池等消耗部品を除く)

■修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常のあるときは、故障状況をなるべく詳しくご連絡ください。

●保証期間中のとき

恐れ入りますが、お買い上げの販売店に、保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定に従って修理いたします。

●保証期間が過ぎているとき

取り付け販売店に、まずご相談ください。修理によって機能が持続できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

■アフターサービスなどについてご不明な点はお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。

■リモコンを紛失や破損したとき

リモコンを紛失や破損したときは、新しいリモコンを登録(有償)することができます。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

※リモコンは取り寄せ品となるため、ご来店当日の登録ができない場合があります。あらかじめご了承ください。

「取付・接続説明書」や本書にしたがった、正常な取り付け・接続、使用状態で製品に故障が生じた場合は、製品の保証書にしたがって修理いたします。また、本機取り付けによる車輛や車載品の故障、事故などの付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

ユピテルで相談窓口一覧

お問い合わせの際は、製品の機種名をご確認のうえ、使用状況もいっしょにご相談ください。

取付、取扱方法に関するお問い合わせ

受付時間 10:00~18:00 (年末年始等、当社指定期間を除く)

お客様ご相談センター **TEL. (0564)45-6515**

電子メールでのお問合せ先 **service@yupiteru.co.jp**

取扱方法、修理依頼、販売店の紹介に関するお問い合わせ

受付時間 9:00~17:30 月曜日~金曜日(祝祭日、年末年始等、当社指定期間を除く)

地区	名称・電話番号・所在地
北海道	札幌営業所・サービス部 TEL. (011)618-7071 〒060-0008 北海道札幌市中央区北八条西18丁目35-100 エアリービル1F
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島	仙台営業所・サービス部 TEL. (022)284-2501 〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町4-8-6 第2喜和ビル1F
栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・新潟・静岡	東京営業所・サービス部 TEL. (03)3769-2525 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33 芝浦新本ビル3F
岐阜・愛知・三重・富山・石川・長野・福井	名古屋営業所・サービス部 TEL. (052)769-1601 〒465-0092 愛知県名古屋市名東区社台3-181
滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島・香川・愛媛・高知	大阪営業所・サービス部 TEL. (06)6386-2555 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町53-10
鳥取・島根・岡山・広島・山口	広島営業所・サービス部 TEL. (082)230-1711 〒733-0001 広島県広島市西区大芝2-9-2
福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	福岡営業所・サービス部 TEL. (092)552-5351 〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原3-2-19

- 上記窓口の名称、電話番号、所在地は、都合により変更することがありますのでご了承ください。
- 電話をおかけになる際は、市外番号などをお確かめのうえ、おかけ間違いのないようご注意ください。

<無料修理規定>

1. 表面記載の保証期間内に、取扱説明書等の注意書に従った正常なご使用状態で故障した場合には、無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、機器本体および本書をご持参、ご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
3. ご転居ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には、最寄りの弊社営業所・サービス部へご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷
 - (ロ) お買い上げ後の移動、落下等による故障及び損傷
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、指定外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障及び損傷
 - (ニ) 特殊な条件下等、通常以外の使用による故障および損傷
 - (ホ) 故障の原因が本製品以外にある場合
 - (ヘ) 本書のご提示がない場合
 - (ト) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
 - (チ) 付属品や消耗品等の消耗による交換

- (リ) お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金
5. 本書は、日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
 6. 本書は再発行しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

故障内容記入欄

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または、最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。
※弊社営業所・サービス部は30ページをご覧ください。

保証書

(持込修理)

本書は、本書記載内容(裏面記載)で、無料修理を行うことを、お約束するものです。

保証期間中に、正常なご使用状態で、故障が発生した場合には、本書をご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

品番	VE-S160E (カーセキュリティシステム)		
お買い上げ年月日	年	月	日
保証期間	お買い上げの日より1年 (消耗品は除く)		
お客様名	様		
ご住所	TEL.()		
販売店	店名・住所		

上欄に記入または捺印の無い場合は、必ず販売店様発行の領収書など、お買い上げの年月日、店名等を証明するものをお貼りください。

無効